

今日もあなたのそばに。明日もあなたのために。

デュポン通信

2014.5
Vol.35

プレバソン®フロアブル5で、

(農林水産省登録:第22464号)

とうもろこし(スイートコーン)のアワノメイガ対策!

昨年の登録拡大以降、使用者の方から好評を得ているとうもろこし場面についてご紹介します。主要作物以外にも、ご家族で食べられる分や直売所出荷向けにスイートコーンを作付けされる方もいらっしゃると思います。収穫してみたら、先まで実が入っていなかったり、実入りがまばらで歯抜けになっていてがっかりした経験をお持ちの方も多いのではないでしょうか？
今回は、スイートコーン品質に直接被害を与えるアワノメイガについて防除のポイントを解説します。

■アワノメイガ加害生態

幼虫が雄穂に集まる。雄穂開花後は雌穂に移動し、絹糸を食べながら雌穂内に食入する。

防除のポイント

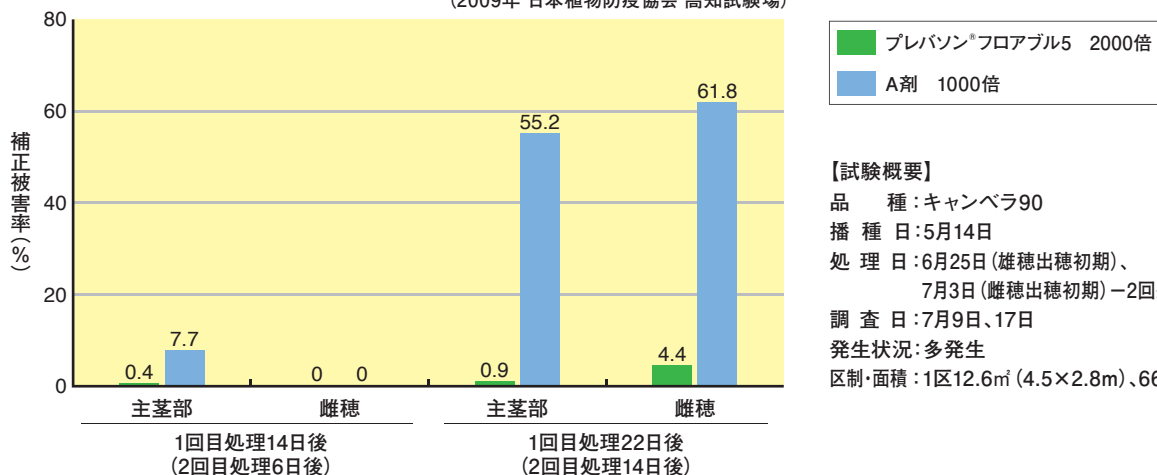
雄穂出始めと雌穂出始めの2回散布



とうもろこしの葉は水をはじくので、必ずぬれ性を向上させる展着剤を加用して下さい。

■アワノメイガに対する効果比較

(2009年 日本植物防疫協会 高知試験場)



【試験概要】

品 種:キャンベラ90
播 種 日:5月14日
処 理 日:6月25日(雄穂出穂初期)、
7月3日(雌穂出穂初期)→2回処理
調 査 日:7月9日、17日
発生状況:多発生
区制・面積:1区12.6㎡(4.5×2.8m)、66株、3反復

裏面へつづく▶

■防除のタイミング(アワノメイガ)

プレバソン®フロアブル5は、同害虫に対し高い活性を有しますが、実際の防除で薬剤の効果をも十分に引き出すためにはとうもろこしの生育に合わせた散布時期を守る必要があります。

とうもろこしは、雌穂の絹糸(ひげ)1本1本がすべて穂の中の子実に繋がっていますので、絹糸に花粉がつかなくなったり絹糸そのものが傷つくと実入りがまばらになり品質が低下します。つまり、良いとうもろこしを作るには雌穂への食入を防ぐことはもちろんのこと、雄花出始めから受精が完了するまでの期間も十分に作物を保護する必要があります。

以上より、アワノメイガ対策での一般的な薬剤散布タイミングは雄穂出始めから7日間隔で2~3回の散布ということになります。約2週間と長い残効を有するプレバソン®は、1回目の防除時期である雄花出始めおよび2回目の防除時期である絹糸の出始めの連続散布(または他系統の登録薬剤を散布)することで、より確実に安定した品質のとうもろこし作りを可能にします。



アワノメイガ幼虫



2014年4月現在

■適用害虫と使用方法(とうもろこしのみ抜粋)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
とうもろこし	アワノメイガ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

デュポン株式会社 農業製品事業部

FAX 03-3549-1819 e-mail news@dupont-info.jp

〒104-0045東京都中央区築地3-7-10 JS築地ビル5F

※情報提供の目的でダイレクトメールを送信しております。発送、および内容に関するお問合せは、上記問合せ先(デュポン農業製品事業部センター)までお願いします。